

市政を問う

代表質問では会派を代表して4人の議員から市長と教育長の5年度施政方針について、一括または一問一答方式による一般質問では16人の議員から広範な市政課題についての質問がありました。

代表質問



櫻 裕子
(盛友会)

本市の少子化の傾向と対策

問 本市の出生数などの推移と今後の見通しは。また、人口減少対策として力を入れる取り組みは。

答 出生数は平成29年は2245人だったが、令和2年は1873人で、今後も減少傾向が続くとみられる。5年度は出産・子育て応援交付金等事業や高校生などまでの医療費給付事業を実施予定である。

子ども食堂事業の拡充

問 本市で子ども食堂が開設され7年目になるが、これまでの成果と拡充に向けた取り組みは。

答 食材提供やサポートが広がり、子育てを支える地域コミュニティとして認知されている。運営団体への助成を継続するほか、関係団体と連携して拡充に努め、各小学校区に1カ所の設置を目指す。



子ども食堂のさらなる拡充を

代表質問



中村 亨
(市政クラブ)

地場中小零細企業への賃上げ支援

問 国は経済界に賃上げを要請しているが、中小零細企業は賃上げが難しい状況である。市の支援が必要であると考えますが、所見は。

答 労働生産性などの向上につながるデジタル化の取り組みなどを支援するほか、商工関係団体を通じて賃上げを要望するとともに国などの支援策の活用を促す。

学校給食を通じた食育

問 5年4月から市学校給食センターの供用が始まるが、学校給食を通じたフードダイバーシティなどに関する食育実施への見解は。

答 児童生徒の健康などに配慮した摂取基準を設け、栄養基準に留意して学校給食を提供しており、環境への配慮や食の多様性を取り入れた食育導入を研究する。

◆用語解説

フードダイバーシティ

宗教上の理由や自らの考え方、アレルギーなどにより食べるものが限られていたり、食べることができないものがあるといった、食の多様性のこと。食の多様性を尊重し、環境を整備し対応することをフードダイバーシティ対応という。(日本政府観光局ホームページより作成)

代表質問



豊村 徹也
(創盛会)

市長の現在の心境

問 歴代最長の在任期間を目前にした市長の現在の心境は。

答 財政再建などさまざまな改革を進めてきたほか、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症などの課題にも対応してきた。市政運営にご協力いただいている市民の皆さまに感謝するとともに、より一層身が引き締まる思いである。

学校給食センターの今後の整備

問 今後建設する学校給食センターの候補地や時期、災害時を想定した設備とすることへの所見は。

答 市の未利用土地や民有地など幅広く検討を進めており、1日も早くスケジュールを示したい。また、熱源は供給量やコストなどを踏まえることとし、災害時におけるバックアップ体制を検討する。



災害時を想定した施設整備を

代表質問



池野 直友
(公明党)

出産・子育て応援交付金

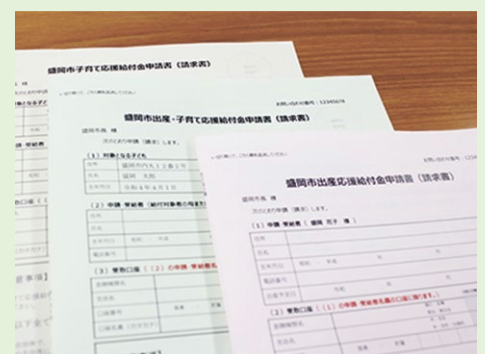
問 子育てに関する伴走型支援と経済的支援を一体的に行う出産・子育て応援交付金事業の実施状況は。

答 4年4月から事業開始日の5年2月1日までに妊娠、出産した2340人へ申請書類を送付した。開始日以降に妊娠の届出をした人へは面談と給付金の案内を行った。

不登校に対する支援

問 本市の不登校の現状と寄り添った支援の状況は。

答 5年1月末時点で、小中学校合わせて453人が不登校で年々増加している。不登校対策相談員などの活用により児童生徒や保護者との相談や助言を適切に行うよう努め、関係機関と情報共有と連携を図りながら支援を継続する。



給付金事業の確実な実施を



長岡 利明
(盛友会)

このほかの質問
・教育振興運動と総合的な学習
・(仮称)南部公民館建設に関する請願に対する見解

保育士の配置基準改善

問 保育士の配置基準は国際的にも低水準であり、質の高い保育のためには改善が必要では。

答 保育の質を向上させるためには配置基準の改善が必要だと認識しており、これまで全国市長会を通じ要望してきた。今後も関係者の意見を聞き、機会を捉えて国に要望する。

救急出動件数の状況

問 東京都では救急隊員の過労が原因で救急車の事故が発生した。本市の救急出動の状況は。

答 令和4年は12558件で過去最多の出動件数だった。出動の多い消防署や出張所の件数は、仙北出張所が2316件、中央消防署が2133件、上田出張所が2019件だった。



後藤 百合子
(無所属)

このほかの質問
・ハードクリームなどへの対応訓練
・能楽を縁とした金沢市との友好都市締結の可能性

いわて盛岡ボールパーク展示室

問 展示室設置が子どもや野球場の事業運営にプラスの効果をもたらすと考えるが、所見は。

答 有名選手への憧れを育み、夢を抱く子どもたちの大きな励みにつながる。ボールパークから世界に羽ばたく選手が輩出されて、ボールパーク自体の価値が高まることを期待する。

紺屋町の街並みの在り方

問 菊の司酒造旧社屋や工場の存廃など、紺屋町の街並みの在り方についての所見は。

答 街並みの保全には歴史的建造物の保存が重要だが、所有者の理解と協力が不可欠なため、景観重要建造物への指定の意向を確認するなど地域の意向に配慮した街並みの保存に努める。



高橋 和夫
(日本共産党市議団)

このほかの質問
・保健所が把握している性感染症の状況と対策

畜産農家への支援

問 食糧危機が深刻化しているが、畜産農家に対する市の支援策は。

答 国や県の支援策のほか、市独自に配合飼料への補助を行っている。生産資材などの価格が高止まりしており、生産者が営農を断念することがないように、今後も必要な支援を講じる。

玉山地域への生活保護担当課設置

問 玉山地域では、生活保護について相談したい場合に内丸分庁舎まで行く必要がある。玉山総合事務所に生活保護担当課を設置しては。

答 ケースワーカーが定期的に訪問して相談対応しているほか、総合事務所では医療券の申請書類などを受け付けており、設置予定はない。



展示室設置でプラス効果を期待



商店街などに市産材ベンチ設置を



先人を主題とした活性化策を

ストリートファニチャーの活用

問 街路灯などに着脱可能な木製テーブルを設置し、憩いの場を提供するストリートファニチャーの取り組みを商店街や緑地で展開しては。

答 街に魅力的な空間を創出することで人を引きつけ、社会活動を誘発する効果があり、にぎわいの創出につながることから検討する。

市産材ベンチの設置

問 市産材ベンチを公共施設や商店街へ設置し憩いの場を提供することは、市産材のアピールや活用推進につながるが、所見は。

答 5年度から市の公共施設へ順次設置する予定としている。商店街などへの設置は要望を聞きながら検討を進める。



太田 隆司
(公明党)

このほかの質問
・中小企業などへの支援
・高齢者などの買い物支援



大石 仁雄
(盛友会)

このほかの質問
・案内標識の多言語対応
・新渡戸稲造由来の教育旅行ルート
・新市庁舎整備

新渡戸稲造を主題とした活性化策

問 新渡戸稲造をメインテーマとした活性化策は、姉妹都市や関係した地域などとの連携強化と活性化の効果が高いと考えるが、所見は。

答 国内外を問わず活躍した先人であり、各都市との連携強化と交流の深化につながるから、新たな交流が生まれるよう調査研究する。

市民へのILC誘致活動のPR

問 ILC誘致が市民へ与える効果を再度整理し、市民に近い目線で啓発すべきでは。

答 外国人研究者やその子女などとの交流により、多様な価値観や文化の理解などにつながるから、各学校へ県のILC出前授業を周知するなど、誘致実現の機運醸成を図る。



竹花 せい子
(市政クラブ)

このほかの質問
・都市景観形成の計画と取り組み
・保健師の増員状況

ひきこもりの実態と支援

問 県の調査では、ひきこもりの半数近くが中高年であるとのことだが、市の実態は。また、中高年への支援の実施状況は。

答 5年1月末日時点の相談件数445件のうち206件が中高年であった。個々の状況に応じた専門家と協力して伴走型支援を実施している。

教職員の勤務実態把握

問 市の教職員の勤務実態把握の状況と働き方改善への所見は。

答 勤務時間管理システムの導入や持ち帰り仕事の調査により、勤務実態把握に努めている。会議の効率化や学校行事の見直しなどで時間外在校等時間の削減を図っていく。

市政を問う

※一般質問の録画映像を配信しています。
スマートフォン・タブレット端末でも視聴できます。



鈴木 努
(日本共産党市議員)

このほかの質問
・新型コロナの5
類移行と医療体制
・第9期介護保険
事業計画
・市道修繕

電気代値上げへの独自支援策

問 エネルギー価格高騰に対し国は家庭や企業へ支援を行っているが、さらなる値上げも予定されており、市独自の支援策を検討しては。

答 県が中小企業への支援金の支給を行う予定であり、国や県の動向を注視し、財源確保を図りながら事業継続などのための支援策を行う。

学校給食費などへの補助

問 物価高騰が続くことから、学校給食費や保育所などの副食費に対する補助を継続しては。

答 4年度下半期分の学校給食費と副食費などへの補助を行っているが、物価の動向を注視し、各学校の給食費などの状況や保育所などの運営状況の把握に努め、必要な支援に取り組む。



庄子 春治
(日本共産党市議員)

このほかの質問
・盛岡城復元整備
への市民合意につ
いての所見
・子どもの学ぶ権
利を保障する支援

公共交通空白地域への対策

問 市内の公共交通空白地域には約6万人が住んでいるが、具体的な対策の取り組みは。

答 飯岡地区と築川地区をモデル地区とし、地域内交通導入の取り組みを進めている。今後の本格運用に向け地域や交通事業者などと相談し、持続可能な運行計画を検討する。

盛岡城跡公園のトイレの整備状況

問 盛岡城跡公園のトイレの洗浄機能付き洋式トイレへの改修を早急に実施すべきでは。

答 多目的広場のトイレは、パークPFI事業により芝生広場へ移転整備するが、故障中の女子トイレは5年3月末までに修繕にあわせ改修する。教育会館側も今後、改修を検討する。



鈴木 一夫
(市政クラブ)

このほかの質問
・JR仙北町駅前
前広場整備への自
動運転車導入
・町内会役員の専
従化と代行業導入

カラフルな住宅団地の形成

問 自然景観とカラフルな色合いの一般住宅を協調させ景観の一部に生かしている国があるが、本市で実証実験を行うことへの所見は。

答 街並みなどの景観は、地域の歴史や自然などとの調和により形成されると認識している。今後も盛岡らしい街並みの形成に取り組む。

未利用財産の活用

問 市の未利用財産活用を検討する専門部署を設置し、民間会社への出向などを含めた職員の技量向上が必要と考えるが所見は。

答 現時点で専門部署の設置は予定していないが、研修への参加などを通じた民間のノウハウの習得など、職員のスキル向上に努める。



盛岡城跡公園トイレ整備を早急に



5年2月の花蓮市訪問(左は花蓮市長)

友好都市などと産業交流を



兼平 孝信
(創盛会)

このほかの質問
・脅迫メール事案
への対応の内容
・盛岡南地区物流
拠点整備に関する
5年度の取り組み

大規模イベント時の交通安全対策

問 きたぎんボールパークでの大規模イベント開催時における周辺の交通安全対策は。

答 来場者に向けて公共交通機関の利用を促すほか、盛岡南公園内の駐車場の利用を制限することを周知することで、周辺の生活道路などへの車両の流入が生じない対策を講じる。

第4次市防犯活動推進計画

問 警察庁公表の「令和4年の犯罪情勢」をどのように捉え、市の計画に反映させるのか。

答 犯罪が悪質化、複雑化しており憂慮すべき状況である。計画策定に当たっては、防犯意識の醸成を図るとともに、自主的防犯活動の推進など、引き続き市民や地域と連携、協働する。



浅沼 克人
(盛友会)

このほかの質問
・外国語指導助手
の招聘拡充
・外国人に配慮し
たやさしい日本語
の普及促進

姉妹都市・友好都市との産業交流

問 姉妹都市や友好都市との産業振興を目指した商談会などの実施状況と今後の展開は。

答 現段階では行っていないが、県やJAと連携した盛岡りんごの輸出を継続的に取り組んでいる。引き続き関係機関と連携し、姉妹都市や友好都市と産業交流が図られるよう努める。

上下水道事業のDX推進

問 上下水道事業におけるDX推進に向けた取り組み状況と今後の展開は。

答 5年度は人工衛星画像による漏水解析やスマートメーターの実証実験など9事業を予定している。今後も市民や事業者の利便性を向上させ、経営課題の解決に向け重点的に取り組む。



三田村 亜美子
(日本共産党市議員)

このほかの質問
・女性保護システ
ムの周知
・市独自のスクール
ソーシャルワーカー
配置

パートナーシップ制度

問 これまで11年度までの導入を目指していたパートナーシップ・ファミリーシップ制度を5年5月に導入することとした理由は。

答 導入自治体が200を超えるなど社会的理解が進んだことや、当事者の生きづらさなどの軽減のため、早期の導入が必要だと判断した。

性暴力・性被害の防止

問 性暴力などの防止には、経済対策など幅広い分野の力が必要である。今後の取り組みは。

答 広い分野の関係機関が連携を図り、相談しやすい環境整備が必要である。新たな支援の枠組みについて、関係機関と協議を進め、寄り添った支援を行う。



村田 芳三
(盛友会)

このほかの質問
・クラブ活動と母
校に対する生徒の
思い
・教員の時間外手
当と地域移行費用

休日の部活動の地域移行

問 休日の部活動を総合型地域スポーツクラブなどへ移行することとしているが、クラブ数が市スポーツ推進計画に定める目標に達していない。地域移行を進めるに当たっての対応は。

答 実情に応じた取り組みを検討している。生徒や教員、保護者の要望を把握し取り組む。

合宿補助制度の利用状況

問 4年度に新設した合宿補助制度の概要と実績は。

答 5人以上の小学生以上で構成される団体が、盛岡広域圏内のスポーツ施設を利用し、市内に1泊以上宿泊する場合に補助する制度で、11団体、延べ325泊で65万円余りを補助した。

※一般質問の録画映像を配信しています。
スマートフォン・タブレット端末でも視聴できます。



伊達 康子
(公明党)

このほかの質問
・市と盛岡地方気
象台との連携
・デジタル・マイ
タイムラインの導
入

書かない窓口の導入

問 窓口での申請手続き時に記入が不要な書かない窓口を導入することへの見解は。

答 業務効率化などのメリットがあるが、オンライン申請の仕組みづくりや窓口手続きに関連する部局の連携が必要である。今後も手法を研究し、利用者に便利な窓口の実現に努める。

9価HPVワクチン

問 接種の効果と、定期接種化に伴う対応、対象者への情報提供の取り組みは。

答 2価、4価ワクチンよりも罹患率^{りかん}や死亡率の減少が期待できる。接種希望者への円滑な接種と接種後に生じる症状への対応の準備を行うとともに、市医師会などと協力して周知する。



野中 靖志
(市政クラブ)

このほかの質問
・学生に対する生
活支援
・JRローカル線
存続に向けた市の
基本姿勢

高等教育支援拡充の要望

問 世界的に高いと言われる日本の高等教育の学費の引き下げや給付型奨学金の拡充について、国や関係機関に強く要望すべきでは。

答 安心して学ぶことができる環境を国が整備する必要があるため、機会を捉えて国や関係機関へ要望する。

JRローカル線の利用促進対策

問 JR山田線と花輪線の今後の利用促進に向けた具体的な対策は。

答 山田線についてはパンフレットを作成し配布するほか、JR山田線沿線自治体首長会議で具体策を検討する。花輪線については花輪線利用促進協議会で情報配信や具体策を検討する。



中野 孝之助
(盛友会)

このほかの質問
・郷土伝統芸能団
体からの要望内容
・医薬品不足の現
状把握

郷土伝統芸能の継承発展

問 新型コロナウイルス感染症拡大により活動や発表機会が減少し伝統芸能の継承が難しくなっている。課題解決に向けた市の取り組みは。

答 後継者確保に向けた学校と地域の連携した取り組み支援のほか、国の補助金を活用するなど、団体を支援するための財源確保に努める。

医薬品不足への対応

問 医薬品の供給が不足しており、医師の処方どおりに調剤薬局が調剤できないことがあるが、市の対応策などの検討状況は。

答 医薬品不足による市民の不安^{ふっしょく}を払拭するため、国の供給体制の整備状況などを情報提供することなどを検討している。

採択された請願への市の対応

《請願名》

人口減少社会を見据え、安全・安心な保育の継続に向け、子どもの保育・成育環境向上のための改善に伴う、子ども・子育て支援の更なる充実に関する請願

(令和4年12月22日採択)

《市の対応》

保育施設への振興対策については、財政支援を国に要望するとともに、安定的な運営に必要な支援を検討する。「保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業」については、本市も応募しており、採択後は積極的に取り組みを進める。保育士配置基準と処遇の改善については、安全安心な保育の継続に必要であることから、保育士配置基準や公定価格の見直しなどを引き続き国に要望する。

会派の意見

本会議において、各会派が市長提出議案などに対して意見を述べる討論が行われました。各会派の討論の要旨をお知らせします。

★すべての議案番号と議案名は、8ページに一覧表として掲載しています。

盛友会

全議案に賛成

議案第1号は、歳入状況の厳しい中、行政コストの削減を図るなど、財源確保に努め、意欲的な予算編成としたことを評価する。姉妹都市等国際交流事業および友好都市等交流事業について、石川啄木や新渡戸稲造をキーとして姉妹都市や友好都市との交流を広く深く行い、本市の存在感がいっそう高まるよう方策を講じられたい。議案第18号は、市消防団の要望を踏まえ、処遇改善を行うことを評価する。引き続き、消防団員の団員確保対策に努めるとともに、他部署においても交通指導隊など地域の安全安心を守る活動への支援を強化されたい。

市政クラブ

全議案に賛成

議案第1号は、4年度と比較し4.5%減の1218億7千万円の予算編成であるが、市民の生命と生活を守る施策を第一に、持続可能な行政サービスの実現に向けた予算編成としたことを評価する。議案第39号は、市政広報活動事業、観光客誘致宣伝事業について、コロナ禍でさまざまな制限のあった状況から、再び人々が大きく動き出す状況を迎えようとしている中、ニューヨーク・タイムズ紙に「2023年に行くべき52カ所」として掲載されたという千載一遇のチャンスをスタートラインとし、国内外から多くの人が集まり、滞在する街を目指されたい。

日本共産党市議団

一部議案に反対

議案第1・7・17号は、次の立場から反対する。県央ブロックごみ・し尿処理広域化は、盛岡広域8市町のごみを1カ所に集めて燃やす計画が進められているが、二酸化炭素排出削減が世界的な課題となっており、計画に固執せず、ごみの減量、資源化について、早急に方向性を打ち出されたい。後期高齢者医療は、年齢で区別し、全ての人に保険料負担を求める制度で反対であるほか、物価高騰の中での保険料と自己負担の引き上げは撤回すべきである。職員定数は、過労死ラインと言われる月80時間超の時間外勤務が増加傾向にある中での減員は問題である。

創盛会

全議案に賛成

議案第1号は、法人市民税などの減収が見込まれる一方で、物件費などの増加が見込まれ厳しい財政状況にある中で、市民の生命と生活を守ることを第一に考慮した予算編成を評価する。議案第13号は、今後100年間においても安全でおいしい水を市民に供給していく気概を持ち、組織体制の強化を図り、米内浄水場の更新基本計画の策定に取り組みられたい。議案第39号は、道路除排雪事業を増額補正しているが、道路損傷把握のため、パトロール強化や情報提供の呼びかけなど道路補修に万全を期し、市民生活の安全確保に努められたい。

公明党

全議案に賛成

議案第1号は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつあり、緩やかに持ち直しているものの、法人市民税の回復が遅れが見込まれ、歳入全体に占める自主財源比率は42.5%である。社会保障関係経費の増加など、厳しい財政状況が続くが財政健全化の取り組みを進め、市民が未来へ希望を持てる市政運営を求める。議案第39号は、ニューヨーク・タイムズ紙において「2023年に行くべき52カ所」で紹介されたことから、受け入れ態勢の整備や誘致宣伝活動などの事業費が計上された。観光客へのおもてなしの心を形に表し、スピード感を持って実施されたい。